

2019

一救いを求める場所へ、医療を届けるために一

ワンタイム

海外医療協力事業

バングラデシュ医療派遣報告

2019.9.6～9.16

(医療活動 9/8～9/13)



たくさんの皆様のお支えにより

2,297,223 円 (2019.9.5 時点) の募金が集まりました。

ご理解とご協力を頂き誠にありがとうございました！

派遣医師団紹介



<手前左から>

酒井 典子 医師(県立こども病院／整形外科)

鳥海 勇人 医師(団長:新生病院／脳神経外科)

寺島 左和子 医師(新生病院／形成外科)

酒井 洋徳 医師(信州大学附属病院／歯科口腔外科)

派遣活動場所

【派遣地】

バングラデシュ

ジョイラムクラ・

クリスチャン・ヘルス病院



ジョイラムクラ

医療派遣活動の歴史

新生病院に勤務されていた宮崎先生ご夫妻が、人生のすべてを捧げ取り組まれた活動が「バングラデシュ」への医療支援でした。1989年「新生国際医療協力基金」を設立し、2014年12月まで活動を続けてこれおよそ77回の派遣が行われてきました。

宮崎 亮医師・安子医師



宮崎先生ご夫妻と共に、20年余に及ぶ長い間この活動を支えてきた医師のひとりが、橋爪先生です。整形外科医として専門分野での診療・

手術はもちろんバングラデシュの医療技術向上に貢献するため現地医師への指導も積極的に行いました。



橋爪 長三医師(新生病院名誉院長)

宮崎先生の志を受け継ぐ「ワンダタイム」

宮崎先生ご夫妻の活動から種が蒔かれ、拓かれた海外医療協力の道。強い信念と未来へ繋がる希望の花を咲かす活動を継承し、後世へ伝えていく使命を担っているのが私たち「ワンダタイム」です。

2015年より発足した「ワンダタイム」がこの活動を継承し、現在は海外医療協力事業部が活動地の視察やPR活動を行っています。



バングラデシュへの医療活動の一時中止と

活動再開に向けての道のり

・テロ事件の発生

2016 年 7 月バングラデシュの首都ダッカでイスラム過激派によるレストラン襲撃テロ事件があり、日本人 7 名を含む 20 名が犠牲になりました。事件前 4 月～5 月にかけて約 10 日間の日程でワンタイムとして初めてバングラデシュでの医療派遣活動を安全に終え、新たに繋いだ絆を再確認した直後の事でしたが、この事件を受けバングラデシュでの医療派遣活動を一時中止とする判断を強いられました。

・派遣に向けての新たな取り組み

現地メディアや、関係者からの情報によるバングラデシュの情勢確認を慎重に重ねながら、ようやく 2019 年活動再開に向けての準備がスタートしました。派遣を確実に実現させるため、新たに派遣医師団を中心とする定期的な懇談会を開催。既に現地で医療支援活動を行った医師へコンタクトを図り現地医療に関する最新情報の共有や、支援を募るための PR 活動の計画・準備に

ついて皆で意見を出し合い、協議を重ねながら派遣の日を迎えるまでチーム一丸となって入念な準備を進めてきました。新聞等、メディアへの PR 活動も積極的に行いました。



須坂新聞掲載(2019.8.10 号)

活動内容

＊現地の医師・スタッフへの教育

(手術や感染リスク、治療について)

＊現地で必要とする医療の提供

(治療困難な手術症例 等)

＊今度の活動内容の検討

(ジョイラムクラ、ダッカでの活動)

ジョイラムクラ・ クリスチャン・ヘルス病院について



少数民族のガロ族が住んでいるバングラデシュ北部の農村、ジョイラムクラ村にあるミッション系の病院です。

首都であるダッカ国際空港から車で約4～5時間の距離にあります。経済的な問題などから十分な医療を受けられず、病気や不自由を抱えたままの大人や子どもたちがたくさんいます。

病院の様子



↑病棟

患者さんがあふれ、床にも布を敷き入院させています



↑手術室

手術室内にもハエや蚊が飛んでいる現状

外来待合→

日本からの医療チーム
の情報を聞きたくさんの
患者さんが来ていました



外来診察風景



派遣医師団

1日のスケジュール

7:30 起床

8:30 回診

9:00 外来

11:00 手術

16:00 昼食

16:30 手術

22:30 終了

23:00 夕食

24:00 就寢

朝から目まぐるしいスケジュール
で医師たちは休む間も惜しんで
深夜まで診療にあたりました。

手術風景



診察／手術件数

診療科	診察患者数	手術数
整形外科	121	28
形成外科	59	31
脳外科	53	3
歯科口腔外科	49	10
合計	282名	72件

・今回は派遣期間中を通して
現地の麻酔科医が全身麻酔を行ってくれた事もあり、2016 年バングラデシュ医療協力派遣時より多い手術実績件数となっています。



↑手術を嫌がる子どもに
麻酔をかけています

現地での様子

現地の医師・看護師



タポス・レマ先生
(院長・整形外科)



ルーシー先生
(副院長・産婦人科)



シュキラさん
(総看護師長)



ラシェッド先生
(麻酔科)



滞在中お世話になった方



現地で患者さんとの通訳としてサポートしてくださいました。診察や手術をする上で把握しておかなければならない現病歴や症状について詳しく聞く事ができスムーズに診察を進めることができました。

近藤 恵 医師 (写真右)

医療宣教師／外科医師

リーベンゼラ世界宣教会所属。教会からの派遣で、年間約半分の期間ジョイラムクラ・クリスチャン・ヘルス病院で、医療活動にあたられています。

【医療宣教師とは】・・・医療活動を通し人々に仕えつつ、伝道する宣教師のこと



現地メディアでの報道

滞在中に新聞の取材を受けました

【報道内容 日本語訳】※原文ママ

マイメンシン、ハルアガット・ウパジラにあるジョイラムクラ・クリスチャン・ヘルス病院では、日本の医療チームが 9 月 7 日からこの地域の各地から集まった、さまざまな病によって無力となってしまった患者達に治療を行っている。この日本の医療チームの酒井典子医師(整形外科)、寺島左和子医師(形成外科)、鳥海勇人医師(脳外科)、酒井洋徳医師(歯科)は約 200 人の患者の治療に携わっており、ジョイラムクラ病院の経験豊富な医師であるタポス・レマ医師とルーシー・ダーリング医師は、この日本の医療チームの活動を支援している。「我々は予想を上回る患者を治療している」と、ジョイラムクラ病院の医師兼院長のタポス・レマは述べている。医療チームは 9 月 8、9、10 日に患者を診察し、9 月 11、12、13 日に手術を行う予定である。常務理事のタルン・ダーリングが、ジョイラムクラ病院の患者全員を代表して感謝の意を表した。



バングラデシュの状況

都市部と地方の豊かさの違い



道路の半分の部分は、舗装工事が進められていました。ここ数年でGDPもかなり上昇しているため、都市部の生活は豊かになってきています。その一方、地方では以前とあまり変わらない生活が送られていました。

今回の派遣をご支援頂いた皆様

2019 年度海外医療協力支援事業指定でご寄付を頂き

掲載をご了解頂いた方をご紹介します。(50 音順、敬称略)

青島 敏行、赤塚 みどり、浅地 亮子、吾妻 陽子、阿部 弘、阿部 芙美子、井口 昌子、池田 真由美、生駒 一郎、石田 修一、伊坪 すみえ、伊藤 光子、井上 ノリ、医療法人社団 サマリア会 理事長 相馬信行、医療法人社団島崎外科胃腸科 院長 島崎 桂吉、医療法人原山こどもクリニック 理事長原山 修、岩崎 しのぶ・幸津枝、岩藤 功、上田 峻弘、内山 詔之、遠藤 秀雄・征子、大生 定義、大屋 恵、恩村 恭子、角田 朝子、嘉ノ海 和男、株式会社上條器械店、株式会社信光経営センター、株式会社信越ワキタ、株式会社ソフトウェアサービス、株式会社ソラスト長野支社、株式会社中島薬局社員一同、株式会社八十二銀行 小布施支店、株式会社松本義肢製作所、株式会社丸陽、川口 健、北野建設株式会社、久保田 拓志、久保畠 しず江、栗林 恵美子、グリーン薬局募金箱、小林 勝・佳奈子、小林 美成子、小林 もえみ、小松喜久子、坂井 昭彦、酒井 典子、酒井 洋徳、坂巻 隆男、左近 和子、佐藤佳子、佐藤 裕信、塩崎 綾子、重國 順子、柴田 俊夫、柴山 さき子、清水理容店、ジョイ ノルトン、白川 ミドリ、新生礼拝堂募金箱、鈴木 三四郎、鈴木 敏子、鈴木 のぶ代、千田 野風生、第一設備工業株式会社、大和ハウス工業株式会社長野支店 建築営業所 照山 拓、高橋 信子、滝沢 まり、竹本 美三子、田中 千里、田中 弘子、田中 申三、玉川 公子、塚田 良夫、寺澤 秀文、寺島 左和子、鳥海 勇人、中北薬品株式会社 代表取締役社長 中北 馨介、中島 こず江、中島 美江、長島医院ペインクリニック 長島 義人、永田 卓司、長野県信用組合 須坂支店、長野聖救主教会、長野赤十字病院 加藤光朗、中村 恒利、日本キリスト教団 長野本郷教会、新潟聖パウロ教会、西宮 幸治、日本聖公会 婦人会、野々村 邦夫、橋爪 長三、橋本 智、八町 忠、林 てる代、平林 伸一・道子、福田青果システム株式会社、福原 幹雄、藤澤 美智子、

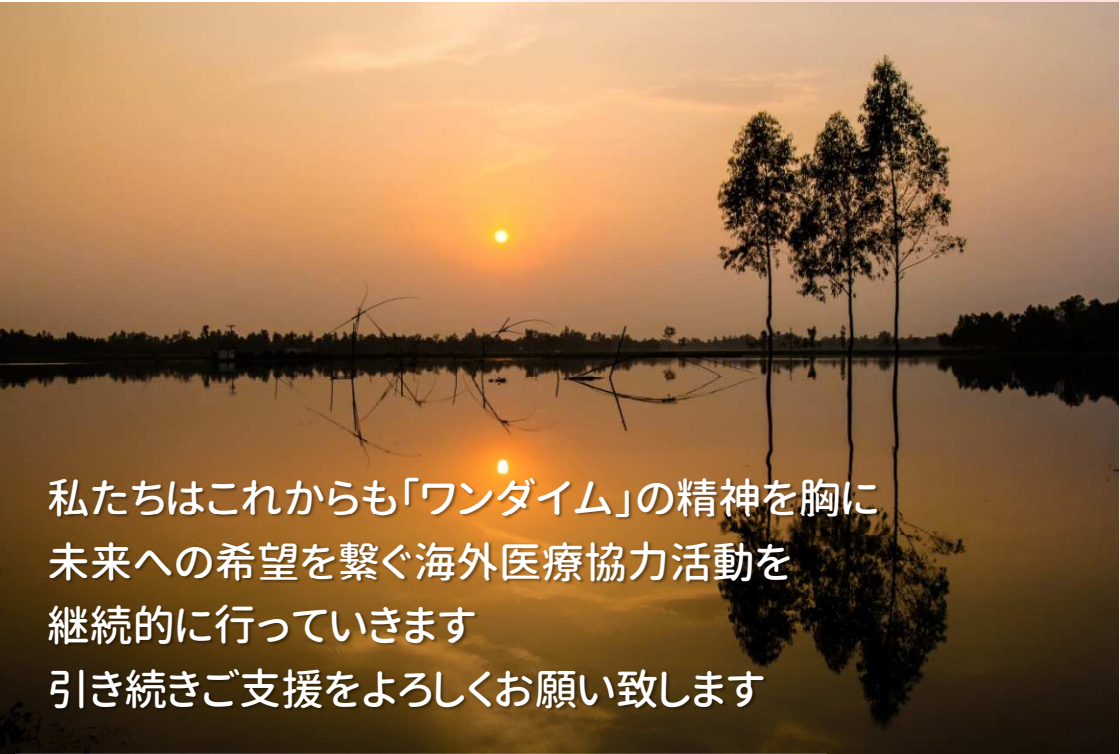
古谷 馨、古内 みづほ、別府 清美、別府 弘祥、保坂 正人、星野 チエ、
星野 方美、細川 亜希子、細谷 和一郎、牧田 章、松井 洋二・幸子、
松本 伸吉、宮尾 陽一、宮澤 佳代、丸山 公子、丸山 正樹、三浦 哲嗣、
村木 真紀子、百瀬 美樹子、森山 益代、山形整形外科 杉本 良洋、
矢野 那奈子、矢野 雄次郎、山ノ内 廣子、有限会社久保田新聞店、
有限会社コヤマ金型、有限会社ナカノファーム、有限会社古瀬義肢製作所
代表取締役古瀬 順子、有限会社松岡工業 松岡 泰広、蘭越町立昆布診療所加藤 秀司
…そのほか

■NPO 法人ワンダタイム宛に全国から募金して下さったすべての皆様

■2019 年新生病院祭にて募金して下さった皆様

■コカコーラ自動販売機を通じて募金して下さった皆様

ワンダタイムの活動に、深いご理解とご協力を頂き
誠にありがとうございました。



私たちはこれからも「ワンダタイム」の精神を胸に
未来への希望を繋ぐ海外医療協力活動を
継続的に行っていきます
引き続きご支援をよろしくお願い致します

Memories 2019



NPO法人

ワンダイム

〒381-0295 上高井郡小布施町小布施 851

ワンダイム事務局 電話／026-247-2033(新生病院代表)

ワンダイムの
様々な活動は
ホームページを
ご覧下さい

